

パンタナール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報

2015年3月1日 138号

世界平和地球村の建設と自然環境の保護



パラグアイ川とレダ基地。右が本流、左は支流。中央に滑走路。岬と手前とに養殖池。(現在の水位と同レベルのときに撮影)

洪水の危機を回避するために

昨年の異常気象によるパラグアイ川水位の上昇は、深刻な洪水の危機を迎えていました。レダ基地ではゲストハウスが床上浸水し、公館の間近まで水が迫りましたが、何とか乗り切ることができました。今後想定される洪水への対策として、堤防(土手)造りを訴えましたところ、多くの皆様の篤いご支援を賜りました。心から感謝致します。これを機にしっかりと堤防を造って行くべく準備しています。十月から二月位までは雨季です。この期間は頻繁に大雨が降るため、未舗装の道路はしばしば通行止めになります。一月末における川の水位は、幸いなことに雨季に入ってから降雨量が比較的になかったこともあって、ピーク時からの下げ幅が例年並みの5メートルに至りました。

堤防造成工事は、業者と綿密に打ち合わせて実行して、最少限度の安全対策は果たして行く予定です。工期状況に關しては、業者との交渉が完了して決まり次第、順次皆様にご案内申し上げます。現時点では、四月か五月頃を見込んでおります。

また、公道から私たちの基地に、堤防工事の為の作業チームとして、建設業者がトラクターやブルドーザー等の重機を何台も運んで来るのにあたって、四十Kmにわたり隣接する牧場の私道を使わせてもらう予定でした。(まだレダ側の道路は作っていない。)しかし重機が走行すると、余りにも道路が傷むことが予想されるため、現在道路の使用交渉が難しくなっています。場合によっては、船で運んで来なければならぬことも覚悟しておかなければなりません。いずれにしても日本では考えられない環境圏での作業工事のため、根気よく多くの困難を乗り越えて行く必要があります。今後とも皆様のご理解とご協力を厚くお願い申し上げます。状況報告とします。

(飯野記)



タロイモ栽培や土壌改良などを研究した亀岡さん

④私は本当に愛され、導かれていると実感しました。たくさん試練を与えられましたが、それを越えるために人を通して言葉を与えて下さった、美しい自然を通して励まされました。⑤技術のある方はぜひレダに行って開拓をされたいと思います。環境は厳しいこともありますが、

①畑での農業・タロイモの研究。②雨の後蚊が大発生した畑での作業です。何十匹という蚊が襲来し、服を二枚着ていても刺してくるので畑にいることすら嫌でした。蚊に刺されながらも耕して種を蒔く中で、この環境下で何年も開拓を続けることが如何に苦労かと痛感しました。③休学していた大学に戻って四回生をやります。できれば卒論でレダのような環境下での農業について調査できたらいいなと思っています。将来は農業か国際支援に関わることをしたいです。

★亀岡誉子さん

レダで活動した若者たちに質問しました
昨年八月から本年二月まで、中期ボランティアとしてレダ基地で活動した二人の若い女性が、去る二月九日、元気に帰国しました。以下、そのインタビューです。
①レダでの担当業務、②レダで苦心したこと、③日本滞在中にしたいこと、④レダ基地での生活、業務などを通して感じたこと、⑤日本の皆様へひと言どうぞ。

連載インタビュー (第5回)

Amo Leda!



パブロ・チャベス

Pablo Chavez (43) 3児の父(7歳男、6歳男、1歳女)奥さんと子供は現在ピラー(パラグアイ最南端の町)近郊に住む。メカニック技師、電気技師の資格を持ち、レダに無くてはならない大黒柱として現在活躍中。

Q. レダに来るようになって10年が過ぎましたね!

A. はい、最初はメカニックで金子さんの助手として、その後、電気関係は小田さんのお手伝いをしていたのですが、現在2人のお方がおられないので、今はすべて自分が責任を持たなくてはなくなりました。時間が経つのがすごく速く感じられます。

Q. レダで大変だと感じる、または今まで大変だったことはどんなことですか?

A. 妻や子供たちと離れて住まねばならないこと。また、何度も住む場所を変えなければならなかったことです。初めはコンセプション市に住んでい

ましたが、都合でエステ市に引越し、そこも都合が悪くなり、アスンシオン市に引越し、そして現在はアスンシオンから350km離れた自分の実家があるピラー市の近郊に落ち着いたのですが、とても遠く、船だと3日はかかります。親戚を含む多くの人から、なぜ家族の近くで面倒を見ないのかと責められました。でも自分にとって幸いだったのは妻が自分を支えてくれたことです。

Q. そんな大変な状況のなかで、レダで仕事をしていてどのように感じていますか?

A. 非常に満足しています。何故なら、ここにいることによって自分が、とても守られていることを感じるからです。また、インディヘナの人々と仕事をし、この辺境の地の村の人々の為に尽くせるのもやりがいがあります。そして、人を感銘させる活動の一端を担い、自分がしていることに誇りを持つことが一番素晴らしいことだと思います。

内的に与えられるものは本当に尊いと思います。

★谷本情花さん

①シニアの小橋さんがレダ基地で育てている豚や牛でチヨリソーや、川で獲れたピラニアを使ってかまぼこや魚肉ソーセージを作っておられるので、そのお手伝いと、レダで働いているインディヘナの女性たちに日本食を教えたいました。②インディヘナ(先住民)の女性たちに日本食を教えるのは、言葉も通じないし、さまざまに大変で



レダで働くインディヘナの女性たちと谷本さん

したが、一緒に料理を作っていく中で、心情が近くなり、彼女たちからパラグアイ料理を教えてもらったり、帰る時はお土産をもらったりと、すごく良い関係を築くことが出来ました。
③まず、レダ基地での活動を通して感じたことをたくさんの人に伝えたいです。
④レダは、自然が本当に美しく、朝日や夕日、星空、たくさんの動物たち、珍しい魚や植物などに毎日感動しましたし、自然の中で自分自身をすごく見つめ直すことができました。そして、先輩の先生方の姿を通して、この地で15年も精誠を尽くされたことの偉大さを実感出来ました。私も天と地に信頼される者になっていきたいと思いました。⑤レダは、自然環境も素晴らしく、多くの方々が精誠を尽くされた地ですが、まだまだ困難な事も多いので、一人でも多くの方がレダに関心を持っていただけたらと思います。



★カイマン (ジャカレ)



パンタナールを代表する爬虫類は、文句なしにカイマンというワニだ。地元では、「ジャカレ」と呼ぶ。良く見かけるものは、体長二メートル前後の個体だが、中には三メートルを越す巨漢もいる。

こういう連中が群れを成して川や湖沼のほとりで甲羅干しをしている光景に初めて出くわす時、都会人の中に眠っていた野生が一举に目覚める。そして興奮し、陶酔に至るかもしれない。

爬虫類の嫌いな人は、普通そんなところには出かけはしない。

体は大きい、性質は比較のおとなしく、人が近づくと急いで水中に潜ってしまう。その時立てる轟音は、ドシャン、バシャン、と遠方にまで響き渡る。彼らに接近したかったら、なるべくゆつくり、静かにアプローチするのが良い。ワニが身の危険を感じない限り、まず人を襲うことはない。石などぶつけないで欲しい。川岸で釣りをしているとカイマンが近づいてくることしばしばある。水中をいつの間にか忍者のように静かに接近し、近くに来ると目だけを出してこちらを見ている。まさか釣れた魚を横取りする気はないだろうが、岸に雑魚を投げてやると、敏捷な動きで走り出てくわえる。陸上でも足はかなり速い。ワニに近づかれなくてはならぬ、釣竿を水平にして持つと

よい。立てると遠くのワニにも知られてしまう。

カイマンは鳴く。ワオー、ともグアオーともつかぬドスの利いた濁声で、体を弓なりにして猛獣のように吼える。あたかも天に向かって祈るような威厳さえ感じることもある。カイマンこそパンタナール水軍の王者だろう。成熟したカイマンの天敵は人間だけだ。



卵は、枯れ草を多く含んだ土で覆われている。上の写真は、撮影のために覆いをどけた。もちろん、このままでは卵が野鳥や野獣の餌食になってしまうので、元の状態に戻した。

(ワニ目 アリゲーター科 パラグアイカイマン)

★ドラード (または、ドラド)

パンタナールの魚類の王者は、ドラードだ。誰が決めたというわけでもないが、その名声は不動のものと言ってよい。金色に輝く美しい魚体。凶暴なピラニアをも圧倒する勇猛ぶり。釣り師と繰り広げる壮烈な闘い。そして魚肉の美味。どれをとってもファーストクラスの魚として、評価は定まっている。

ドラードは、パラグアイ水系、パラナ水系な



どの本流と支流に棲む。繁殖期に近づいた雄と雌は、生まれ故郷の静かな流れに帰り、稚魚の餌となるピラプタナガなどと共に産卵する。孵化した稚魚は、同じ頃孵化するピラプタナガなどの稚魚を食べることになる。そして成長しながら大河に戻り、生涯を肉食で生きる、フィッシュイーターである。

ドラードの成魚は、尾びれの下が食いちぎられていることが多い。パンタナールには他にもピラニアを筆頭に肉食魚が数多く棲む。王者ドラードといえども、危険な青少年時代を、水中のジャングルの中で勝ち抜いてきた個体は、選ばれた者と言える。釣り師のハリに掛かっても、おいそれと捕まったりはしない。ローリングとジャンプでハリを外そうとする。ドラードの口は硬く、ハリが口に引っかかっているだけなら、釣り糸を弛ませ、首を振ってハリを外してしまう。逃がしたドラードは、大きく、美しい。その悔しさを胸に、釣り師はいつその闘志をかき立てられる。



二〇〇八年十一月に始まった禁漁期から、五年間、ドラードは捕獲禁止となった。減少した個体数を回復するためだ。店頭を賑わしていたドラードは、一旦市場から姿を消した。近年、川幅いっぱいもあるうかと言う巨大な網が使われるようになったが、いかに闘魂豊かなドラードといえども、食欲な商人と漁師の大量網にはかなわないのだ。(カラシン目 カラシ科 ドラード、またはドラド) (小田記)

南北米福地開発協会 日本国内活動

国際協力青年奉仕隊の派遣



環境問題セミナー



環境改善モデル地域への訪問



青年に対する環境講演会



エコツアーの企画



植樹活動



今年は日本での活動も活発に推進します。

日本の各地で南北米福地開発協会の支部が結成されています。柴沼事務局長が全国を巡回、支部結成の意義と今後の方向性について説明会を行いました。過去、十五年は南米、パラグアイ、レダの地の開拓の支援とレダ近郊のインディヘナ村への教育支援を主に行ってきました。昨年の五月に日本において当協会が一般社団法人となり、パラグアイにおいて実践してきた奉仕と自然保護活動を日本の各地域単位で行うことになりました。会員の皆様は支部に所属し、地域での集会や活動に積極的に参加してください。

第七回パンタナール一日特別研修会ご案内

お待たせいたしました。本年初の一日特別研修会を、左記の通り開催いたします。会場が変更しましたので、この点にご留意ください。

日時：二〇一五年三月二十八日（土）

十時三十分～十七時三十分（十時より受付）

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター

（東京都渋谷区代々木神園町三二）

小田急線参宮橋駅から徒歩七分

参加費：二〇〇〇円（昼食を含む） 当日受付にてお支払いください。

プログラム（予定）

★提唱者の思想と私たちレダ開拓史（飯野）

★ここまで進んだ地球環境問題（高津）

★レダプロジェクトにおける理想郷建設（柴沼）

参加申込は、①名前・フリガナ②年齢③性別

④住所⑤電話番号⑥メール⑦紹介者を明記の上、

FAX：〇四四八二九二八二〇、または

メール：office@asd-nsa.jpへお願いします。



第六回一日特別研修会風景（2014年11月9日）



ポット苗作りの説明を熱心に聴く参加者

一般社団法人 南北米福地開発協会事務局

〒213-0001

神奈川県川崎市高津区

溝口3-11-15

岩崎ビル4F

電話：044-829-2821

FAX：044-829-2820

ゆうちょ銀行（旧一般会員会費納入）

記号10280 番号61349751

一般社団法人 南北米福地開発協会

Eメール：office@asd-nsa.jp

ホームページ：http://www.asd-nsa.jp

会員種別

♠ 会員一口1000円／月 ※口数は申込者が申告

♠ 特別会員一口1万円／月 ※口数は申込者が申告

♠ 法人会員一口1万円／月 ※口数は申込者が申告

会費は、毎月の引き落とし方式です。

会費振替用口座 ゆうちょ銀行 00290-5-113072

加入者名：シャ) 南北米福地開発協会

入会申し込みと同時に手続きをお願い申し上げます。それが確認でき次第、会員番号を確定し、ご案内いたします。

♥ 入会申込書は、左記の事務局にお申し込みください。

また、ホームページからもダウンロードできます。

PDF形式 <http://www.asd-nsa.jp/nyuukai.pdf>

Word形式 <http://www.asd-nsa.jp/nyuukai.docx>